

法苑珠林



やくよけ祖師 堀之内 妙法寺

〒166-0013 東京都杉並区堀之内 3-48-8

Tel: 03 - 3313 - 6241

Fax: 03 - 3313 - 5007

<http://www.yakuyoke.or.jp>



表紙 うらそし 裏 祖 師

江戸時代、浅草の「観音様」か堀之内の「おそっさま」と言われるぐらい妙法寺は多くの参詣者で賑わっていました。

しかし参詣者があまりに多く、祖師堂内に入りきれないほどでしたので、お堂の裏からでもお参りできるように安置されました。

江戸名所図会（現代で言うガイドブック）にも掲載されており「すこぶる盛大の寺院」と記されています。



▲江戸名所図会

宗歌

日蓮聖人最晩年の弘安五年に詠まれた歌です。

「生涯を振り返ると、ほんとうに様々なことがあった。命を失わんとしたこともしばしばであった。しかし、この身延のお山は、釈尊が法華経を説かれた靈鷲山と同じ。木々を渡る風も、川の流れも皆法華経の教え。今こうして身延の山で弟子、信徒に囲まれ、法華経に生かされる日々を送っている私の心は、実に安穩で豊かである。身も心も晴れ渡つてすがすがしい。」との思いがこの歌に込められています。

この歌は弘田龍太郎氏が作曲。現在、日蓮宗の宗歌となっています。

宗歌

日蓮聖人御詠

立ち渡る

身のうき雲もはれぬ
たえぬ御法みのりの鷲すずめの山風



南無妙法蓮華經

皆様の元へ小誌がお届け出来る頃は既に秋となり 季節はずれの話になりましたようか 今年も梅雨時 寺の境内に紫陽花が沢山の花を咲かせておりました 本来自然に咲いている花を眺めるのが最適かと思いますが 雨量が少なく元気がない時など 切り花にして花瓶に挿しますと 水を吸い上げ見る見るうちに成長し見事な花となつて

私の目を楽しませてくれます 草花は盛りの時が一番綺麗と思つていました ある時 寺の職員が時期を過ぎた花をドライフラワーにして机に飾っておりました 盛りの時とは違い 思つてもいない色合いと趣に驚き その花の姿に目を奪われ暫く見入ってしまった 物の姿は時が移るに従つて 次第に変わつて行くものですが その時々々の良き様子を持つ事が出来るものと改めて感じました 人も若い時は何にも勝り綺麗に見える時期があるものです しかし人の身体も二十才前後

をピークに 少しずつ老化が始まつて行くと聞いております 人の身体之最盛期は ほんの一時 その後の人生がずっと長い訳になります 私達のまわりには年齢を幾つ重ねて来られても常に豊饒かくしゃくとした立派な方 物腰・話し言葉が綺麗で品格を感じ 刻まれたお顔の皺までもが何とも美しく思えるご婦人がおられます 私もこの様な方々を見習い 歳を重ねて行きたいと思ひますが 一朝一夕に自分を磨き上げて行く事は容易たやすいものではありません

日蓮大聖人は「一念無明の迷つ心は磨かざる鏡なり 是を磨かば法性真如の明鏡と成るべし 深く信心を発こして……只南無妙法蓮華經と唱えただてまつるを是をみかくとは云なり」『一生成仏鈔』と述べられ 又 「妙法蓮華經の五字は經文に非ず 其義に非ず 唯一部の意のみ 初心の行者 其心を知らずとも 而も之を行ずるに 自然に意に当たる也」『四信五品鈔』と仰せられています

私達は日蓮大聖人が仰せの通り お釋迦様の御心である法華經を信じ持ち その精神を持つて日々を暮らし 至心にお題目をお唱えし 自らを磨いて行く事が大切です 私達は歳を重ね日々老いて行きますが 紫陽花の様に時が移つた後 姿を変えても今までとは違つた各々の人としての魅力を醸し出す事が出来れば誠に幸です

日蓮聖人の手紙

(二十四)

妙揚寺住職
立正大学仏教学部教授 北川 前肇

さどの国より、此の甲州まで入道の来りたりしかば、あらふしぎやと
をむひしに、又今年来りてな(菜)つみ、水くみ、たきぎこり。
だん(檀)王の阿志仙人につかへしがごとくして、一月に及びぬる
不思議さよ。ふで(筆)をもらてつくしがたし。これひとへに
又尼ぎみの御功德なるべし。又御本尊一ふくかきてまいらせ候。
靈山浄土にてはかならずゆきあひたてまつるべし。恐恐謹言。

卯月十二日
尼是日

訳

「これまでに、佐渡の国からこの甲州身延山まで、夫の国府入道が訪問されましたことは、ほんとうに思いがけない尊いことと思っていましたところ、また今年も、身延山まで参詣されました。そして、法華経の提婆達多品第十二において、釈尊が過去世において、須頭檀王であったとき、法華経の教えを求めるために阿志仙人に千年もの長きにわたって給仕に励まれたように『菜摘み、水汲み、薪樵』して、一か月間ご奉仕されたことの、何と尊いことでしょうか。感謝の気持ちは筆をもって、尽くすことができません。これも、ただひとえに、あなた(尼君)の尊い信仰のたまもので、あなたの果報となるものです。また、御本尊を一幅したためて差し上げます。ご夫婦は佐渡にいられますので、今生でお会いできそうにもありません。未来世には、必ず久遠のみ仏のまします靈山浄土でお会いいたしましょう。つつしんで申しのべました。四月十二日 是日尼

(弘安元年(一二七八)四月十二日・『是日尼御書』・昭和定本一四九四頁)

解説

文永八年(一二七一)冬、日蓮聖人が極寒の佐渡に流罪の身となられた折、献身的に聖人にご給仕した信徒がありました。それが阿仏房夫婦であり、国府入道夫妻です。両者はともに佐渡の国府に在住し、その夫たちは、身延の聖人のもとへしばしば訪問したことが知られます。ことに国府入道夫妻は、子宝に恵まれなかったことから、聖人は、年を重ねたならば、身延に参られるようにとすすめられています。この弘安元年四月十二日の手紙は、国府入道の妻である是日尼に対して、夫が一ヶ月もの長きにもわたってご給仕されたことに感謝され、大曼荼羅御本尊を贈られると同時に、靈山浄土で再会する約束を記されています。

日蓮聖人の生涯

【第三回】

遠藤教温

立教開宗

確信にまで高まった法華經への帰依を携えて、蓮長がなつかしい故郷安房に帰ったのは建長四年（一二五二）の秋でした。

そして、翌建長五年（一二五三）春、四月二十八日。

清澄山上の旭が森で暁天の東の空に向かい、

いきました。時に蓮長三十二歳。父母に伴われてこのお山に上った少年善日磨の二十年後の姿でした。

その日の昼頃、清澄寺道善房の持仏堂に集まった人々に、帰郷後はじめての説法をした蓮長は、諸国への求道の旅の成果を述べて、「法華經こそが真実の教え、すべての人々を仏道に導く正しい教え、経王である。南無妙法蓮華經とお唱えなさるがよい。法華經を投げ捨てている念仏宗は大きな過ちを犯している。経文のほかに仏の真実があるという禅も間違った教えである。」と説いたのです。

合掌して立つ蓮長の姿は凜として神々しくさえありました。その表情は決意に満ちた緊張感を漂わせています。太平洋から朝日が昇り、光が広がっていきます。その朝日に向かって唱える「南無妙法蓮華經」という朗々とした音声。三遍、七遍、十遍と、末法の闇に光明となつてふりそそぐかのように、蓮長の唱えるお題目は清澄の森に高らかに響きわたって





聴衆の多くは念仏信者。まったく意表をついたこの言葉は、集まった人々の期待を裏切り、法話の場は怒号の飛ぶ混乱の場へと変わってしまいました。

「法華經こそ真実最高の教え」「他の經では本当の成仏はできない」と説けば、必ず迫害され、命さえ失うことになる。このことを法華經自身が説いています。今、自分が法華經を説けば、流罪死罪は免れない。いや、自分のみか、父母、師匠なども迫害に会うであろう。説かないほうがよいのではないか。しかし、法華經こそがみほとけの真実の言葉であることを知った以上、語らなければ仏の戒めに

背くことになり、苦しむ人々を助けないのは慈悲なき者となってしまう。どうしたらよいのか、はげしい心の葛藤が続く。ついに進退きわまつて蓮長の出した結論は、「言うべし」。

若き蓮長の激しく揺れ動く心をふりはらったのは、少年薬王丸として智慧の宝珠を戴いた虚空蔵菩薩への報恩の思いであり、「いかなる苦難があろうとも耐え忍んで法華經を語れ、命をも惜しまずに行じよ」との釈迦仏の叱咤の声でした。

この時、蓮長は自ら名を改め、「日蓮」と名乗ります。聖人は、のちにこう述べておられます。

「明らかなること日月にすぎんや。浄きこと蓮華にまさるべきや。法華經は日月と蓮華となり。故に妙法蓮華經と名づく。日蓮また日月と蓮華との如くなり。」

太陽や月の光が暗闇を除くように、蓮が泥の中から出て清らかな花を咲かせるように、汚れた社会の現実にあつて汚泥に染まらず、法華經の救いを実践し、人々の暗闇を取り除いていこうとの誓いを示す名前です。

四月二十八日、日蓮宗はこの日を「立教開宗」の聖日としています。

法縁



めぐりくその十六く

日蓮宗の寺院は、全国に約五千ヶ寺あります。その中でも、特に縁の深い寺院のつながりを「法縁」と呼んでいます。ここでは、堀之内妙法寺を中心とする「堀之内法縁」に属する寺院を紹介していきます。

こうしゅうざん・みやここういん・じょうえいじ

光秀山 妙光院 浄永寺

住職 中橋教樹



一 城下町の北側に配置された寺

小田原駅西口から山側の入谷津いりやつに向かつて十分ほど歩くと、当山に着きます。寺の裏手の山道を登れば、箱根外輪山から続く尾根道となり、周囲はみかん畑で、南を見ると相模の海が見渡せます。

然し尾根道の外側は、みかん畑ですが、その下を掘り下げれば空堀となっています。

小田原北条氏は、周囲約9km、土塁と堀の総構えで町全体を囲み、そのすぐ内側に寺院を配置しました。当山と並ぶ六つの寺々も、総構えのすぐ近くで、ほぼ、等間隔に配置され、絵図を見ると、鬱蒼たる竹藪を巡らして



◀ 本堂正面

▲ 本堂御宝前



▼ 本堂外観



あります。戦時に、寺は北条方兵士の宿舎となるので、敵方に動静を感知されにくくする為です。

当山三十七世(師父)は、寺を留守にして東京の本山・堀之内妙法寺に勤めていたことがありました。一ヶ月に一度、自坊へ帰る時に、道路の両側から覆い被さる竹で足元が暗くなるので、藪の隙間から射し込んでくる星明かりを頼りにしたそうです。今ではこの竹藪、どの寺も残り少なくなりました。然し、歴史を表す貴重な文化遺産です。

二 開創は、風祭の地で弘安五年九月

開基は、鎌倉武士で莊園領主の風祭大野かざまつりおおののすけみつひで之亮光秀。開山は光秀の子、九老僧、妙音院日行上人です。

浄永寺の裏手の尾根道を西に向かって三十分ほど歩くと、風祭水之尾部落みずのおぶらくに着きます。この地には、今も光秀の子孫が住んでいて、光秀の位牌を守っています。

光秀は、鎌倉武士であったので、鎌倉幕府へ出仕。その折に、日蓮聖人の辻説法を何度か聴聞した筈です。

新編相模国風土記稿には、『光秀、建長中日蓮に帰依し、弘安三年の冬、身延山に詣り

に宗祖直筆の本尊が秘蔵されていることを発見しました。弘安二年十一月の御筆です。

日蓮聖人画像は、元和年間に、徳川家康の側室お方の方が、この画像を厚く信仰し修復。二重の函はこ(自身の三味線函と徳川家光の刀函)に納めて浄永寺に寄進されました。この画

▼「日蓮聖人画像」



曼荼羅及び蛇身解脱の画像を拝受。宅地の側に法華堂及び七面社を建て、同五年九月に、日蓮、光秀の宅に至りし時、今の山寺号を授け、且つ、光秀が子を弟子僧となし、妙音阿闍梨日行と名付け、…』と記してあります。

又、寺が風祭から現在地の入谷津へ移ったのは、永正十五年、北条氏綱が堂宇を再興し妙光院せうこういんの號を銘じたとあります。

三 日蓮聖人筆本尊曼荼羅と日蓮聖人画像

昭和三十二年十一月二十二日、立正大学の日蓮教学研究の調査団(団長、影山克雄教授)が、浄永寺に参られて、偶然にもこの寺



◀ 宗祖直筆の大曼荼羅

宗祖直筆の本尊が発見された当時、その記事と共に「日蓮宗新聞」に掲載された写真。▼



像は、日蓮聖人が右手に扨子、左手に経巻をとる説法像で、銅製の花瓶に巻きつけた龍が描かれています。現在、この寺宝は、鎌倉国宝館に寄託していますが、大日蓮展等で一般にも公開をしています。

四

でがいちよう
出開帳の日蓮聖人木像と七面大明神像



▲七面大明神像



七面社▶

天保四年四月八日
より六十日間、この寺
宝が、江戸深川浄心寺
に出開帳されました。

当山三十世享元院日
貴上人の時です。寺は、

この時の浄財で大破し
た諸堂を修補したとあ
ります。当山には、こ
の時に宣伝用に使った
画像印刷の版木(七面
大明神像)と大太鼓が
残っています。

浄永寺

〒250-0045
神奈川県小田原市城山2-24-20
☎0465-35-5366

【交通】東海道線
●「小田原駅西口」より徒歩約10分

お祖師様と私

このコーナーでは、当山とゆかりのある方々をご紹介します。

第二十三回

(有)大花商会
お会社桜製造

おおた
太田 東洋 一さん



となりました。

我が家が妙法寺様と
ご縁を頂いたのが昭和
三十四年、この時檀家

父が造花製造業をしていたので昭和四十年
頃からこのお会社のお花の製作を頼まれたか

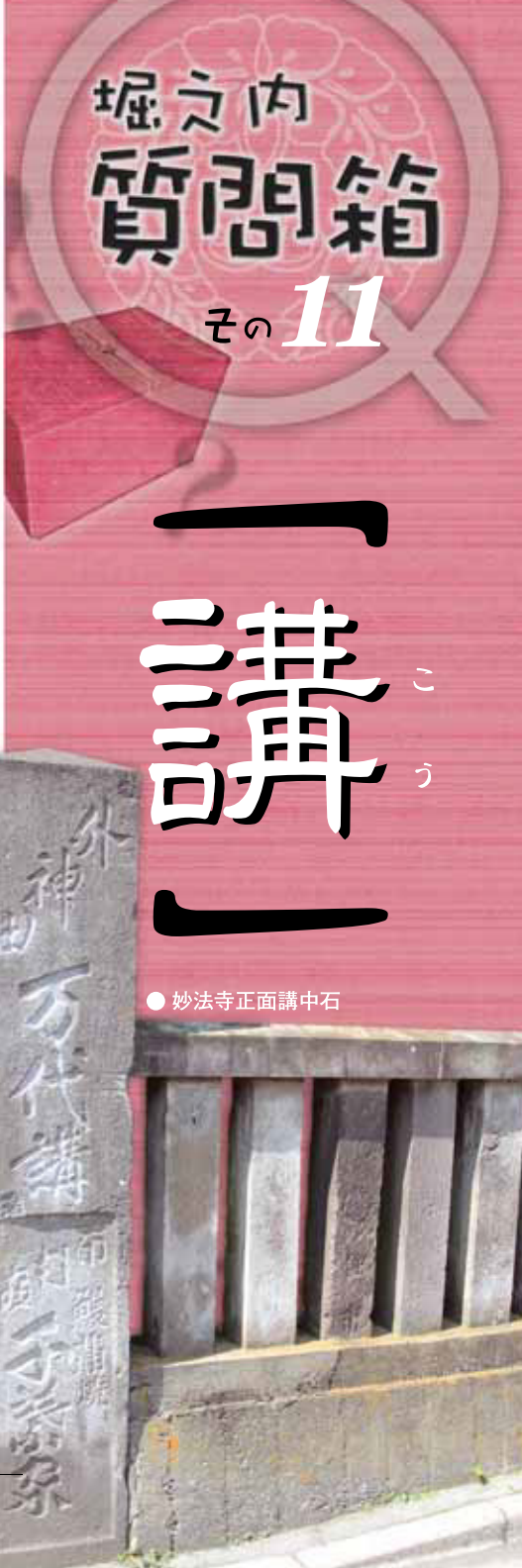


と思います。

それから約五十年、
毎年九月下旬より「お
花講」に間に合わせる
よう家族皆でこの花造
りに携わります。行程
は薄葉紙をお寺さまか
ら預かりました花型で抜き、真ん中をピンク
に染め、組み上げてガクをつけていきます。

現在の仕事はアクセサリー製造ですが、この
時期になると仕事を中断して、心を込めて
一つづつ造れる事が幸せと感じています。

この先もお祖師様のために続けられたら
うれしい限りです。



堀之内 質問箱

その11

「講」

● 妙法寺正面講中石

Q 『講』って何ですか？

『広辞苑』に「①仏典を講義する法会、最勝王講、法華八講など。②仏・菩薩・祖師などの徳を賛嘆する法会。③神仏を祀り、または参詣する同業者で組織する団体、二十三夜講・伊勢講・稻荷講・大師講の類。④一種の金融組合ま

たは相互扶助組織、頼母子講・無尽講の類。」とあります。この様に『講』とは、もとは、大寺院の中で仏教の研鑽をする僧侶たちの集まり①②のごとでありましたが、仏教が民間に広まるにしたがって、一般の信仰集団を指すようになりしました③④。ここで取り上げる『講』は

大勢で信仰儀礼や修行を行う集団のことで講中ともいい、様々な形態があります。

全ての要素を基本的に持ちながらも、いずれかを主眼として行動しています。また講の形態としては①寺院で行うもの②村や町などの在家宅で自主的に行うもの③祈祷所や先達宅で行う

Q 日蓮宗にはどんな講がありますか？

日蓮宗の講の特徴は、どのような仏神を崇拝することにせよ、必ず「南無妙法蓮華經」と唱え、曼荼羅を礼拝することです。従いまして日蓮宗の講を特に「題目講」と呼びます。題目講の信仰内容には①祖先の追善供養②現世利益の祈祷③自らの修行という三つの要素があり、

ものご區別できます。ものご區別できます。

Q 江戸時代の講の様子は どうでしたか？

最盛期には江戸には二百以上の講が存在したといわれています。例としてあげれば①地名を冠した講…芝講中・新宿講中など②祖師・守護神を冠した講…鬼子母神講・妙見講など③日時を冠した講…



▲祖師堂にある「芝講中」と「新宿講中」▲



八日講・十二日講など様々な形態がありました。

江戸時代の講中の主な信仰活動としては①寺院の年中行事への出仕②身延山久遠寺や祖師ゆかりの寺院への巡拝③講中で信仰活動を行い、講員への回向・祈願を行うといったものでした。

江戸の講中が通常営む儀礼は、信徒の代表である先達を取り仕切りました。又、身延山久遠寺祖師像の開帳の折には、講元という信仰組織が、講中と寺院との仲立ちを行い、プロデューサー的な役割を負っていました。講中の出



▲祖師堂内にある中橋子ノ日講の大前机

仕と江戸町人の信仰無くして出開帳は出来なかつたと思われれます。

江戸時代、妙法寺の講の様子は？

江戸時代、堀之内妙法寺に於いて行われていた法華千部会には、法要の荘厳や回向・

祈願目的に江戸や近郊の講中が参詣し、その数は年を追うごとに増えていきました。多い時に

は江戸市内に存在する日蓮宗の講中の半分が妙法寺に参詣したといわれます。妙法寺における千部会では、江戸市内の町中に「千部講中」という信仰組織が編成され、それらの講中が施主となり盛大な法会が行われていたようです。又、「五力町講中」といって、日本講中・神田講・両国講・伝馬町講・馬喰町講の講中が中心となつて行事を取り仕切っていたようです。

現在、妙法寺にはどんな講がありますか？

堀之内妙法寺は講によってささえられてきました。「神田万代講」などの供養碑が今も境内にあります。題目講や石にも講の名が刻まれています。



▲境内の石塔には「三日講」「千部講」、両国（東西講）の文字が刻まれています。

今も「涌出会」「七字会御題目講」「千部講」

などがあります。

法華経お題目と日蓮大聖人の教えを信じる集まりとしての『講』にぜひ皆様もご参加ください。

かわら版

当山の行事やご祈願などをご案内するコーナーです。

第七百三十五遠忌

◎ 宗祖 報恩お会式

本年は日蓮大聖人第七百三十五遠忌に当たります。当山では、次の日程にて報恩お会式を奉行いたします。日頃よりご守護頂いている日蓮大聖人に報恩感謝の気持ちを捧げる何よりの機会



です。お檀家の皆様には、ご家族・ご友人をお誘い合わせの上、ご参詣下さいます様ご案内申し上げます。

《 記 》

■ 十月十二日(水)

お題目道場

…十一時・十三時

■ 十月十三日(木)

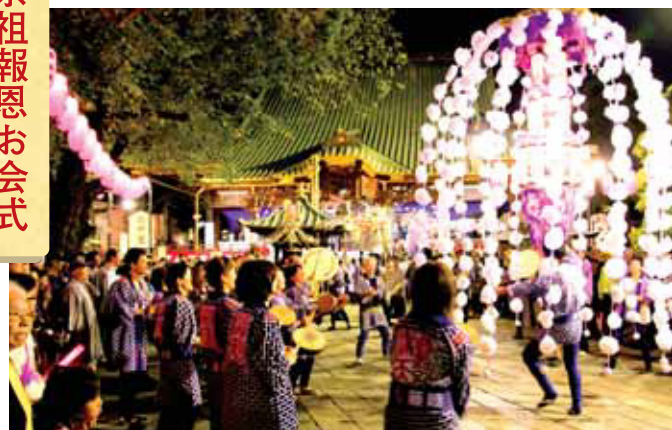
宗祖報恩お会式

自我偈読誦会…十時・十三時

お説教…十二時

万灯練り供養…十九時

(雨天中止)



《自我偈読誦会》ご参加のお勧め

○ 参加費 五千円也

(昼食・お経頂戴・お札代含む)

お自我偈は、法華経の中心となるお経です。お会式の法要に参加し、お自我偈を読誦して日蓮大聖人の御心にふれ、宗祖に報恩感謝の誠を捧げて下さい。お経本をお持ちでない方には、仮名つきのお経本をご用意いたします。初めての方も、是非ご参加下さい。

《日蓮大聖人報恩感謝の塔婆》

○ 報恩感謝塔婆 一本 三千円也

(申込〆切 十月十日迄)

《お花講》ご参加のお願い

■ 十月十日(月) …九時

宗祖御報恩お会式に備え、当山の祖師堂をお飾りするお花造りを致します。

参加費は無料でお開帳・昼食の用意がございます。皆様ふるってご参加下さい。



◎二十三夜尊大祭



二十三日の夜、月待ちをすれば願いが叶うとされた「二十三夜信仰」。財運・縁結びを二十三夜様にお願ひする大祭です。

《記》

■〈日時〉十月二十三日(日)…十三時

■〈場所〉祖師堂西内陣

◆**特別祈願** (商売繁昌・良縁成就・他)

○祈願料 五千円也 (お札・絵馬授与)

◎お正月壹番開帳



妙法寺独自のお札です。新年最初のお札として元旦の午前0時に除厄安全・家内安全等をご祈願して授与いたします。

○祈願料 五千円也

◎常経施主



一年を通して、毎朝願主の除厄安全・家内安全等をご祈願するものです。お札を授与いたします。

○祈願料 壹萬円也

◎七五三詣

お子様・お孫様の健やかな成長をご祈念する「七五三のお祝い」のご祈願をお受けしております。

○祈願料 五千円也 (お守り・お札・千歳飴・他)

◎節分会

年の節目である立春の前日にお経を頂戴し豆まきを行い、厄を除き、幸多き一年を願う行事です。

《記》

■〈日時〉二月三日(金) …十四時半

■〈場所〉祖師堂

○年男女参加費 参萬円也

(お札・節分糺・節分豆・記念品沢山)



《電話》03-33313-6241

にっつてのお問ひ合わせは、お気軽に寺務所まで。

東京立正で学んでほしい 『文部両道』の楽しさ!

東京立正中学校に男子バレーボール部が創部され早いもので一年がたちました。現在部員は試合に出ることができギリギリの六名しかおりませんし、全員まだ二年生です。この六名がようやく、勉強とともに部活動や学校行事にも積極的に取り組む「文部両道」の精神を体得することができたよ

うです。その結果として五月に行われました第三ブロック大会（杉並、中野、練馬区）で準優勝し都大会に初出場しました。六月には、上級生が中心で今まで一度も勝てなかった高井戸中学校を破り杉並区初優勝を果たし、夏の都大会では上位進出を狙っています。

このように現在は「順風満帆」



▲夏季都大会出場決定

した。「宿題をやってないので居残りしています。」「掃除当番をさぼったのでやり直しています。」などなど。大好きなバレーボールをするためには当然、学校生活をきちんとしなければなりません。頭では分かっているものの、なかなか実践できない日々が続きました。「文部両道」。言葉にすればなんてことのないような響きですが、まだ幼かった彼らには、少し高いハードルでした。そしてマイナスのスパイラルが生じます。バレーボールができない。

居残り勉強が増える。「誰かが悪いのではなく、自分が悪い」そんなことは彼らも承知していました。自分への苛立ちから彼らの表情は日に日に悪くなっていきました。その中で行われた昨年十一月の新人戦は、まさかの全敗。この敗戦から彼らの成長が始まったのかもしれない。『試合に負けて悔しい。しっかり練習したい。だから、学校生活もきちんとしてよう。』そんな気持ち芽生え始め、少しずつですが、苦手な学習面での努力を継続するように

なってきました。まだ全員ではないものの勉強も楽しくなってきたようです。当然、表情も輝きが戻ってきました。大好きなバレーボールの練習はもちろん頑張っています。「文部両道」。実践できるようにになれば、こんな楽しいことはない。そう言っているように見える頼もしい男子バレーボール部員六人です。この調子が続けば「東京都代表」もまんざらではなさそうです。期待して下さい。そして応援よろしくお願い致します。

**オープン
キャンパス
日程**

コミュニケーションで
未来をつむぐ。

平成28年	平成29年
9月19日(月)	1月7日(土)
9月24日(土)	2月4日(土)
10月2日(日)	3月18日(土)
10月15日(土)	
11月5日(土)	
12月10日(土)	

全日程共、下記の時間に開催します。

10:00~12:00
12:30~14:30

予約制

※日程が変更になる場合がございますので、お越しの際はホームページにてご確認ください。

東京立正短期大学

[全てはコミュニケーションから始まります]

東京立正短期大学
現代コミュニケーション学科(共学)

- 現代コミュニケーション専攻
心理コース/ビジネスコース/観光コース
- 幼児教育専攻
(保育士・幼稚園教諭養成課程)

本学の奨学金制度をご利用ください。



〒166-0013 東京都杉並区堀ノ内 2-41-15 TEL 03-3313-5101 FAX 03-5377-7641
URL <http://www.tokyorissho.ac.jp/>



平成29年度入学者対象 学校説明会日程

中学校

高等学校

平成28年10月2日(日) — 10:00	平成28年9月24日(土) — 10:00
平成28年10月29日(土) — 14:30	平成28年10月1日(土) — 13:00
平成28年11月5日(土) — 14:30	平成28年10月29日(土) — 10:00
平成28年11月12日(土) — 14:30	平成28年11月5日(土) — 10:00
平成28年11月26日(土) — 14:30	平成28年11月19日(土) — 10:00
平成28年12月3日(土) — 14:30	平成28年12月10日(土) — 10:00
平成28年12月10日(土) — 14:00	
平成29年1月14日(土) — 14:00	

いずれも、会場は本校です。ホームページで最新の日程を必ず事前確認の上お越し下さい。



学校法人 堀之内学園

東京立正 中学校
東京立正 高等学校

〒166-0013 東京都杉並区堀ノ内 2-41-15
TEL 03-3312-1111 FAX 03-3312-1620
URL <http://www.tokyorissho.ed.jp/>



御法事やお祝いなどのお料理
各種取り揃えております



お祝い初め お宮参り 初誕生 初節句
七五三 入学祝 成人式 ご結納 上棟式
ご法事 通夜料理 精進おとし

ときぜんみわ
季膳味和 **味季和膳**

0120-030-668
東京都中野区南台5-9-2

仏壇・仏具・位牌
みす平は創業300有余年の神・仏具の専門店
オーダーメイドでの仏壇製作から、古くなった仏壇・仏像・お位牌などの修理、修復も承ります。



良品安値!

みす平は10年後、20年後の信用を大切にします。

神・仏具のみす平
株式会社みす平飛天堂
☎042-334-9981 FAX 042-334-9982
〒183-0045 東京都府中市美好町1丁目30番地の13
<http://www.misuei.co.jp>

墓石・記念碑門塀
諸石材工事
マサ
有 限 公 司

中島正石材

〒166-0013 東京都杉並区堀ノ内2-1-31
TEL 03-3313-8846
FAX 03-3313-8822
TEL 03-3313-8822
FAX 03-3313-8822

清水屋
御菓子司



〒166-0013 杉並区堀ノ内3-48-3
03-3313-0725

【営業時間】和菓子 ◆10時～17時
手打ち蕎麦 ◆平日：11時～15時・17時～20時、
縁日・祝祭日：11時～18時（蕎麦がなくなり次第終了）
【定休日】火曜日 水曜日（縁日と祝祭日は休まず営業）

編集後記

政治への不信・公金横領・不倫・覚醒剤・ストーカー行為・オレオレ詐欺・セクハラ・移民問題等、…これらは、憂き世のスパイラル、数えたらキリが無い、あーイヤだ！

国内外の政治も経済も、いつの世も、人々の悩みは尽きません。それよりも、ご先祖様のご供養をいたしましょう！ 自分達のご先祖様や他人様へも、手を合わせて感謝の気持ちを表すことこそ、私達本来の真の姿なのです。

日々の暮らしに感謝を!!
素直な気持ちで心の安寧を願うならば、信仰心を持ち、感謝の気持ちを常に持ち、ご先祖様への供養を続けて行きましょう。

教雄記

雄豊理深亨義善厚宝行傳秀
教教教教教教教教教教教教
田田田田田田田田田田田田
小嶋吉山山石望宇龜望小戸

委員長
委員

教誌編集委員
HORINO UCHI

